

6 籾数別の登熟経過と刈取適期

福島県農業試験場会津支場・平成12年度農業試験場試験成績概要

1 部門名 水稻－水稻－品質・食味 分類コード 01－01－27000000

2 担当者 松本靖・手代木昌宏・大谷裕行・鈴木幸雄

3 要 旨

m²当籾数が異なる稲の登熟経過を玄米品質と積算気温から検討し、会津平坦地域における主要品種の刈り取り適期(特に晩限)について検討した。

(1)「ひとめぼれ」の検査等級が最も高い時期は籾数が3.3万～3.4万粒以下の場合、積算気温1000～1200℃の範囲であった。積算気温が1300℃を超えると、薄い着色粒が散見された。籾数が3.7～3.8万粒の場合、青未熟、心白、発芽粒の発生が多く、検査等級が劣った。また、検査等級の高い時期が遅れ、刈取適期幅は狭い傾向にあった。

(2)「コシヒカリ」の検査等級が最も高い時期は籾数が3.2万～3.3万粒以下の場合、積算気温1000～1200℃の範囲であった。「コシヒカリ」の検査等級はひとめぼれに比べ高く、刈取適期幅がやや長い傾向にあった。積算気温が1200～1300℃になると薄い着色粒が散見された。籾数の多い3.6万粒では心白、腹白、発芽粒が多くなり、検査級が劣った。

(3)以上、玄米の検査等級1等格付けからみた刈取適期は長期間に渡ることが確認できた。ただし、高品質米を確保するためには、倒伏程度200以下、m²籾数3.3万粒以下の条件で、「ひとめぼれ」が出穂後積算気温1300℃まで、「コシヒカリ」が同1300～1400℃ までと推察された。